

参加者の声

トンボの調査

トンボみちができた時、お父さんから教えられて初めて行ってからも何年もたちます。トンボみちフアンクラブに入ってもらい活動するようになりました。

最初はヤゴの観察をしたり池の掃除などを行いました。ヤゴがトンボになってから観察や調査をしました。

調査の方法は、トンボを傷つけないように網でとります。とつたトンボの羽に番号を書いて逃がします。番号は捕まえた場所が分かるようになっていきます。



そして公園などで番号の付いたトンボを捕まえてどこから来たトンボかを調べます。僕はトンボが色々な所や遠い所へ飛んでいくのがすごいと思います。今度は、三ツ池公園とかに行つて僕もトンボを捕まえて、調査したいと思います。(鶴見小学校4年 高木博乙)

トンボ取りなど60年ぶりぐらいでした。夏休みに祖父の家に遊びに行くたびに新しい網と虫かごとを買ってもらい意気揚々と出かけたことを思い出しながら参加させてもらっています。当時何を捕まえたのか全く記憶はありませんが、もともと「虫好き」だった私は、トンボの生態研究のほんの一端にでも参加しているという思いが、おこがましい言い方ですがちょっと誇らしく感じます。

残念ながらもまだ1匹しか捕まえられず、こんなに難しかったかとちよつと気落ちしていますがこの年になつて堂々と網を振り回せるのが楽しくもつと捕まえられるは：

昨今動植物研究等、すべてが遺伝子レベルになつてきているように、組織の一部をとりだし、碎

いたり潰したり(?)等、かなり詳しくはわかるようですが、自然の中で、動物等傷つげずにそのままの生態を根気よく観察し続けることでわかることもたくさんあるだろうし、より身近な存在に感じられるようになるのでは...などと、網を振り回しながら感じています。

(土肥文枝)

トンボ調査を行つてみて、とても楽しく童心に返ることができました。現代の子ども達は、テレビゲームの普及などにより、遊びを通して自然とふれあう機会が少なくなつてきていると思います。一緒に調査をした子ども達は、とても楽しそうに走り回つていました。トンボを通して環境作りという意味の他に、子ども達の教育という面でもすばらしい調査だと思えます。今回この調査に関わることができて良かったです。(大学生 五十嵐真之)

私がトンボ調査に参加したのは、夏真っ只中の8月中旬でした。お誘いを受けて参加しましたが、正直横浜の工業地区である鶴見付近にトンボがいるの不安でした。ですが、公園や木々のある辺りにはトンボだけではなく、蝶や蝉、バッタなど多くの生き物が生息してありました。横浜・鶴見にて生き物の住処が、今尚残つていのは市外出身の私にとつて驚きでした。またこの調査では、夏休みの子ども達も多く参加していました。親子で自然や生き物と触れ合える貴重な時間にもなつたと感じます。横浜にこのような場所が残つている事を改めて感じる事の出来た1日でした。(大学生 山科一輝)

このトンボはどこからやつてきたのだろう。まちでトンボを見かけると、そう思うようになった。捕まえる、観察する、記録する、空へ放す。大人から子供まで、調査中は誰もがトンボの研究者だ。企業緑地の存在やエコロジカルネットワーク、生態系に関する様々なことを、トンボを介して学ぶことができる。自然と人をつなぐように、トンボは今日も京浜臨海部の空を飛んでいる。(大学生 小泉恒紀)

トンボを追い掛けるのは久しぶりで、夢中で捕りました。トンボという誰もが知っている生物を通して森づくりを進めるという手法は面白いと思いました。(大学生 富田ひかる)

お誘いを受け、友達3人と、のんびりおしゃべりタイムくらいの気持ちで参加しました。ケンウッドのピオトープは、思つていたよりずっと小さく、綺麗に整備された公園という感じでした。調査方法の説明を受け、こんな方法で、トンボの生態、行動が把握できるんだ?でもこんなところに飛んでくるのだろうか?ましてやこの炎天下に???などと思いつつ調査開始。初めの一匹の飛来・見つけはしたものの網には入つてくれない(無理もなし)。その後、その日参加させてくれた先生が、一匹捕まえエッキングをして放して。その日は、3〜4匹の飛来のみ。でも、こんな地道な調査をしている活動を知ることができた1日でした。そういえば、仕事をしているころ(小学校勤務)一年の初めのプール清掃時、見つけたヤゴをばつにつに入れクラスで飼ひ、羽化を観察し、子供たちと元気におくりだしたことを思い出した。都会のプールに卵をうむ。トンボの命の営みがあることを思い出した。その後、報告書をいただき、川崎の夢見が崎辺りまで来ていることを知った。トンボから命の力強さにあらためて思いを馳せることができました。(小林淑子)

京浜臨海部のピオトープから確認された水生昆虫

東京都市大学 佐野 真吾

2014年度、京浜臨海部のピオトープで、水生甲虫類(ゲンゴロウ類やガムシ類など)および水生半翅類(水生のカメムシ類)を中心とした水生昆虫の調査をさせていただきました。私が調査させていたのは、マツダ、JVCケンウッド、キリンビール、東芝、北部第二下水処理場の5カ所で、13種類の水生昆虫を確認することができました。

今回の調査で印象的だったのは、横浜市内では2例しか記録のなかったチャイロチビゲンゴロウが、4カ所のピオトープから見つかったことです(写真1)。チャイロチビゲンゴロウは、体長3.5mm程の小型のゲンゴロウ類です。神奈川県内では真鶴半島や三浦半島から多く記録されておひ、岩石海岸にできた水溜りを好むとされています。横浜市内ではこれまで鶴見区と磯子区の2例しかなく、岩石海岸のない横浜市内での生息は難しいと思われていました。しかし、今回の調査で4カ所の新産地が見つかり、それらはいずれも京浜臨海部のピオトープであるということは大変興味深いことだと思ひました。ちなみに、市内では2例しか記録がなかったと述べましたが、2例目の記録も京浜臨海部にある企業のピオトープから発見されたものです。



図1. チャイロチビゲンゴロウ



図2. 東芝では幼虫も見つかった。

まり、岩石海岸のない横浜市内では、京浜臨海部のピオトープがチャイロチビゲンゴロウにとって重要な生息地となつていることが考えられます(写真2)。



企業緑地講習会 開催報告



企業緑地はそれぞれの面積が比較的大きいことから、質の向上を図ることや地域環境の改善に貢献できることが活動をおしてわかってきました。

企業緑地の持つ価値や役割について考えるため、平成26年12月10日、横浜市鶴見公会堂会議室にて、企業関係者32名、行政4名、市民4名、フォーラム関係者8名の合計48名の参加のもと企業緑地講習会「ルート1の企業緑地に学ぶ「小さな緑をつないでつくる生物多様性」が開催されました。

講習会では、田口正男先生より「なぜ生物多様性なのか？なぜトンボなのか？」と題し、生物多様性の基本的な考え方やトンボを指標生物とした環境の評価について、事務局より「企業緑地の価値や機能、役割」と題し、横浜

市域の緑地の変遷を背景にした京浜臨海部の企業緑地の位置

づけ、企業緑地が持っている里山的機能についてなどの講演がありました。

その後、鶴見「みどりのルート1」をつくる会※の高田房枝会長より、「国道1号線沿線に

おける企業敷地の緑化事例に学ぶ緑化のメリット」と題し、地域の歴史から緑化を進めようと考えたきっかけ、地域緑のまちづくりの活動経緯、アンケート調査から得られた地域住民の意識と事業進捗に伴う事業者の緑化に対する意識の変化などが報告されました。

最後に横浜市みどりアップ推進課より、緑化を進めるための支援制度の話がありました。

店舗の緑化が進むことで、お客さんが喜んで行きたいと思う店が増え、収益の改善や社員の労働意欲の向上に役立っているという報告は興味深いものでした。参加された方々の今後の環境改善の一助となったことを期待します。

※鶴見「みどりのルート1」をつくる会については、P7～8の活動紹介のページをご覧ください。

「第25回 全国トンボ市民サミット in ございしよ」に参加して

トンボみちファンクラブ 柴田芳宏

日本全国みんな夏休み(?)ということで、7月26日に夏休みをいただいて三重県菟野町へ行ってきました。ロープウェイで訪れた場所は、標高1212mの御在所岳の山頂。下界の暑さを感じない気温26℃のなかで、アキアカネが群れで風に戯れるように飛んでいます。リフトのロープにつかまって移動するチャッカリしたトンボもいます。

翅にマーキングしているおじさんに聞いてみると、なんと今日の個人的な目標は700頭!!捕虫アミの中には、30頭ほどのアキアカネがひしめいているではないですか。そして、それらの翅に御在所岳を示すG印をつぎつぎとマーキングして放してゆくのです。おじさんの首にはオス用、メス用のそれぞれのカウンターがぶら下がっています。その動きはまったく職人技です。

山頂の案内所のお兄さんから、御在所岳でのマーキング調査は43年目であること、アキアカネの数は昔の5分の1に減っていること(それでも、2013年のマーキング数は、29736頭と桁はずれ)、

秋には下界へ降りていって、一番遠くで確認されたアキアカネは福井県敦賀市(約75km)であることなどを教えてもらいました。その晩は参加者の交流会。先ほどのマーキングおじさんを見つけたので確認してみると目標クリアとのこと、凄い! 宿では、前回の開催地である長野県駒ヶ根市から参加した皆さんと同じ部屋になり、浴衣姿で車座になって楽しく情報交換をしながら、夜は更けてゆきました。そして翌日は町民センターで基調講演や活動事例発表などが行われたのでした。

さて、2015年は7月19日、20日に童謡あかとんぼの作詞者三木露風の故郷である兵庫県龍野市で開催されます。みなさんも参加して楽しみませんか!

秋には下界へ降りていって、一番遠くで確認されたアキアカネは福井県敦賀市(約75km)であることなどを教えてもらいました。その晩は参加者の交流会。先ほどのマーキングおじさんを見つけたので確認してみると目標クリアとのこと、凄い! 宿では、前回の開催地である長野県駒ヶ根市から参加した皆さんと同じ部屋になり、浴衣姿で車座になって楽しく情報交換をしながら、夜は更けてゆきました。そして翌日は町民センターで基調講演や活動事例発表などが行われたのでした。



ロープウェイとアキアカネ (大会パンフレットより)

【全国トンボ市民サミットとは】

トンボをシンボルにかかげて、自然環境の大切さを考えていく年次大会で1990年に横浜市で始まりました。それは自然との共生をめざして活動している全国の市民団体の情報交換、交流の場でもあります。

みんなでトンボ博士になろう!

トンボはドコまで飛ぶかフォーラム 報告会

今 年の報告会は、はじめての試みとして「横浜の水辺と緑を考える子ども会議」と同時開催をしました。12年間の活動を通してトンボと大作戦や本調査でわかったことの報告会を実施しました。

3 月29日(日)にトレッサ横浜という港北区のショッピングセンターの中で開催されました。トレッサの中に師岡コミュニティハウスがありそこで報告会また南棟2階のガーデン前でワークショップも実行しました。

報 告会の内容は、まずはトンボ博士である田口正男先生より「トンボでつなぐ京浜の森」のお話がありました。フォーラムの活動の紹介、



京浜臨海部にトンボネットワークは存在しているのか、なぜトンボなのかに始まり今回の調査でわかってきたことのお話がありました。トンボたちにとつて企業や公園の緑地は里山として機能していることなどの報告がありました。また今回は6月から10月まで毎月の調査を行ったことで新たな発見があったことも報告されました。

た。シオカラトンボの急増、基本6種に偏った種構成やなせ8月に赤とんぼが出なかつたのかなどの興味深いお話もありました。その後舞岡中学の科学部の生徒から「舞岡川のハグロトンボ」の調査結果の話もあり、子ども会議との同時開催の意味合いを感じる一場面でした。

ま た2階のワークショップの方は面白い物などに来た来館者にも見ってもらえ、人気のコーナーでした。トンボのぬり絵でトンボの生息環境について学び、また顕微鏡でヤゴの観察もしてもらいました。一般の市民の方にトンボフォーラムのことを知っていただくよい機会になったと思います。



「かんきょう横浜」への寄稿を受けて

横浜市環境保全協議会は、市内の企業や事業所における環境保全活動を推進するため、環境保全に関する情報の提供や講習会の開催、かんきょう横浜(会報誌)の発行等、様々な活動を行っております。

こうした中、広報編集会議において、平成26年度の会報誌の特集について検討していたところ、会員企業の環境活動の参考になるよう、市内で積極的に環境活動を行っている団体に活動内容を紹介させていただいてはどうかとの意見があり、貴フォーラムへ寄稿をお願いいたしました。

かんきょう横浜に6回に亘つてご紹介いただきました貴フォーラムの活動内容は大変興味深く、また、トンボ調査による生態系の把握をベースとした環境の保全・再生・創出活動は会員企業にとりまして生物多様性の保全活動の参考になったのではないかと考えております。

また、会員企業からは、京浜の森づくり事業や企業緑地講習会など市や企業の環境保全活動に関連した記事は参考になったとの意見や、横浜市や企業などそれぞれの立場の視点から書かれた「参加者の声」は読者や企業が環境に興味を持つ機会になったとの意見が聞かれました。さらには、環境活動の参考にするために記事を社内に掲示したいとの意見が寄せられ、企業の環境活動の一助になったものと思っております。

最後に、お忙しい中、かんきょう横浜へご寄稿いただきました貴フォーラムのご担当の方々に改めて感謝申し上げます。

(横浜市環境保全協議会事務局)